

松本養護学校基本方針検討懇談会

第4回発言要旨

1 期 日

○令和元年 12月24日(火) 10:00~12:00

2 内容の概要

○共生社会を築いていくための特別支援学校のあり方

【地域との連携・交流】

- ・教職員だけでは地域の情報が少ないので、企業と連携するなど外に情報を求めていかなくてはいけない。
- ・作業学習で作った製品を店舗に置くことにより、地域への発信にもなる。生徒が納品をしたり、新製品を紹介したりする機会も大切にしたい。
- ・地域の特産品を使った商品開発や、地域の農家の方と共同した作業学習も考えられる。地域にはまだまだ資源が眠っているのではないか。
- ・フォーラムのような形で地域の方に意見を求めていくことも必要である。
- ・小中学部の分教室のニーズがどの程度あるか把握していく必要がある。

【副学籍制度】

- ・松本市で副学籍制度を希望する家庭は「迷っている」という方も含め50名程度である。今後、好事例を積み重ねていきたい。
- ・副学籍制度が先行して進んでいる地域を見ると、好事例が次の人を動かし、周りの人も動かして更によくなっている。好事例を積み重ねて発信していくことが大切だと考える。
- ・日常的な交流の継続が共生社会につながる。

【その他】

- ・小中学校の特別支援学級で学ぶ子たちが増えているのは、保護者をはじめ関係者がその子の特性を踏まえ、少人数で専門的な教育を受けた方がよいと考えるようになってきているからではないか。

○寄宿舎のあり方

- ・寄宿舎だけで困って指導するのではなく、教室と連携してオープンな形で支援していただけることがありがたい。
- ・寄宿舎が地域や学校での活動に施設を開放するのはよい方向である。寄宿舎の施設づくりによって地域との連携のあり方も変わる。
- ・施設づくりは、男女棟やグループ数といった寄宿舎のあり方にも影響する。寄宿舎のつくりと同時に寄宿舎のあり方についても検討を進めたい。